

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2020J3 ■順位表■第15節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

（注：*印は消化試合が1つ少ない）

* 1	秋田	36p	+19	23	4
2	熊本	32p	+13	30	17 HO
3	鳥取	30p	+9	22	13 AO
4	長野	26p	+10	25	15
5	鹿児島	26p	+7	27	20 AO
6	藤枝	26p	+4	29	25 A●
* 7	岐阜	25p	+9	24	15 --- ---
* 8	富山	24p	+10	25	15
9	相模原	22p	-4	18	22 A●
10	今治	21p	+2	13	11 H△
* 11	八戸	15p	-6	16	22 AO
12	YS横浜	15p	-6	23	29 HO
13	G阪23	15p	-7	22	29 HO
14	沼津	14p	-9	13	22 A△
15	岩手	14p	-14	15	29 H△
16	福島	12p	-10	19	29 AO
17	讃岐	8p	-11	14	25 H△
18	C阪23	7p	-16	11	27 A●

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第18節 vs. アスルクラロ沼津

9/27 (日) 14:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場大酒場 **ホームラン**名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日today's guest : **長野パルセイロ**

2019 J3 13勝10分11敗 勝ち点49: 9位

直近の対決と結果

初顔合わせ

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	長野パルセイロ
2020/09/13 J3-15節@プラスタ 八戸 0-3 岐阜	2020/08/30 J3-15節@長野U 長野 2-0 C阪23
2020/09/09 J3-11節@とうスタ他 福島 0-2 岐阜	2020/08/23 J3-14節@えがおS 熊本 1-2 長野
2020/09/06 J3-14節@愛鷹 沼津 1-1 岐阜	2020/08/16 J3-13節@夢スタ 今治 1-1 長野

長野パルセイロ

1990(平成2)年創設の長野エルザサッカークラブが前身。北信越リーグ時代から強豪として知られ、2006(平成18)年にはバドゥ・ピエイラ(日本代表がW杯初出場を決めたアジア最終予選プレーオフ『ジョホールバルの歓喜』の時の対戦相手・イラン代表の監督)を監督に招聘して話題になるも、彼が監督の時には地域決勝を勝ち上がれず、退任翌年の2010(平成22)年の地域決勝で準優勝(優勝は讃岐)してJFLへ。ピエイラ在任中の(2007(平成19)年)よりチーム名を長野パルセイロとする。2014(平成26)年よりJ3を舞台に戦う。天皇杯キラーとして知られ、これまでにJ1チームに対し4勝を挙げる(2012年:札幌、2013年:名古屋、2016年:名古屋、2017年:FC東京)。(吉田铸造)

●9月に入っても、厳しい残暑が続く中で戦い続けるFC岐阜。9/2(水)第13節・ホームYS横浜戦も、ナイターながら30℃を超える中での試合に。岐阜は開始直後に#10川西翔太のゴールで先制するが、FKを直接決められて同点で前半を折り返す。後半に#18石川大地と#9高崎寛之のゴールで2点差とするが、直後に1点を返され、その後のYS横浜の攻撃をなんとか耐えて3-2で勝利した。続く9/6(日)第14節・アウェイ沼津戦では、下位の沼津相手に岐阜が試合を優位に運ぶが、セルフジャッジのミスを突かれて先制を許す。攻め続ける岐阜だったが攻撃がかみ合わず、やっと#16富樫佑太のゴールで同点に追いついたのは後半83分。その後に追加点を奪うことはできず、1-1の引き分けに終わってしまった。そして中2日後の9/9(水)には、前半のみで中止となった8/22(土)第11節・アウェイ福島戦の後半が開催。前半で2点を奪っていた岐阜は、猛攻を仕掛ける福島に対して防戦一方。しかし、45分を粘り強く無失点で凌ぎきり、2-0で勝利。そして中3日で行われた9/13(日)第15節・アウェイ八戸戦では、試合序盤からボール奪取が奏功した岐阜は、#2橋本和、#15町田ブライトのゴールで前半に2点差に。相手のフィニッシュ精度の低さや退場者にも助けられた岐阜は、後半にも#9高崎寛之が追加点を挙げ、3-0で快勝することができた。この4試合を3勝1分で終えたFC岐阜は、順位を暫定10位から暫定7位に上げた。そして1試合を未消化だが、その試合は未だ無敗の首位・秋田戦であり、残念ながら簡単に勝ち点3を計算できる対戦相手ではない。一方、同様に1試合未消化で暫定8位の富山は、対戦相手が11位・八戸であり、未消化試合を終えた場合には順位が逆転される可能性もある。そして、岐阜がホーム・秋田戦(なお、この8/30(日)に中止された試合の代替日はまだ決定していない)に勝利できたとしても、勝ち点は28。J2昇格圏内である2位・熊本との勝ち点差は4と届かないし、首位・秋田との勝ち点差も8。前回のホーム・YS横浜戦時からほとんど変わっていない。こちらが勝ち続けたとしても、他の上位チームが勝ち点を落とさない限り、その差を縮めることができないのが、優勝・昇格争いだ。厳しく苦しい状態が続くが、この状況を我慢し続けることができれば、このレースからは脱落する。自分たちの力を信じて、目の前の1試合を確実に勝ち続けるしかない。

さて、今節の対戦相手は、AC長野パルセイロ。14年のJ3参入から3年間は2位、3位、3位と好成績を取めたが、18年は10位に終わった。そこで昨季から栃木で3年間監督を務めた横山雄次氏を招へいして立て直しを図ったが、シーズン序盤のつまづきを取り返せずに最終順位は9位。ただし最後は5連勝・8戦6勝2分とチーム状態は向上きで終わったため、今季は横山監督が続投しつつ選手を大幅に入れ替えてリーグ戦を戦っている。現在の長野は連勝中で順位は4位と好調。しかし、勝ち点は26で岐阜との差は1、つまり今節は“勝ち点6マッチ”だ。そして、上位チームを確実に叩いて順位を上げることが、今のFC岐阜には求められている。長野で最も警戒すべき選手には、現在7得点の#14三田尚希を挙げる。他にも4得点の#22吉田伊吹、3得点の#10東浩史や#13佐野翼など、好調な攻撃陣が多い。一方の守備では、無失点試合が3試合と少なく、岐阜にも得点のチャンスは十分にあるだろう。

今節と、中2日後の次節9/22(火)富山戦で、早くも今季J3リーグの前半戦が(岐阜は1試合未消化だが)終了する。折り返し地点を上位で通過するためにも、今節も勝たなくてはならない。厳しい対戦相手だが、僕らサポーターも現時点で、できる限りの応援をしよう。解禁になった試合中の手拍子や、今まで通りの拍手やタオマフ・ゲーフラの掲出(振るのは禁止)で、選手たちの後押しをしよう。そして試合後には、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、勝利の歓喜をとともに分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第13節】岐阜 3-2 YS 横浜

●秋田戦が中止になり、中2日で迎える平日ナイター。しかし9月に入っても猛暑が続き、夜でも30℃を超える中での試合。消耗戦になりそうだけど、下位チーム相手に負けるわけにはいかない。

岐阜は、前半で中止となっている8/20 福島戦から採用した4-1-4-1システムで、試合序盤から流れを掴む。すると前半6分、#2 橋本和のロングボールで相手DFラインを抜け出した#10 川西翔太が飛び出したGKもかわして先制ゴール！しかも、ゴール後に指で“13”の文字。10年前の8/28に亡くなった、桐山周也選手に与えられたFC岐阜の永久欠番。今年は、その8/28にFC岐阜アカデミーOB会が設立され、桐山選手は特別顧問にも就任。昨年の鹿児島戦と同様、FC岐阜にとって非常に大事な時期に、こういうパフォーマンスをしてくれる#10 川西選手に心から感謝したい。もう、レンタル移籍はやめて、岐阜に家買っちゃいなよ！（笑）

その後も岐阜のペースで試合が進むが、YS横浜もボール支配を強めつつ岐阜のゴールを狙う。そして、ゴール前のFKを、GK #31 松本拓也が一步も動けないコースに決められて同点…あのキックは見事としか言い様がないけれど、その前にFKを不用意に与えてしまった守備が問題だと思う。YS横浜は、岐阜のDFラインの前で楔のパスを入れる戦術を多用していたが、それを岐阜の守備陣が効果的に防げていなかった。後半もどうなることかと不安だったが、後半から投入された#18 石川大地が後半66分、#9 高崎寛之が後半74分に、それぞれ質の良いクロスをヘッドで叩き込んで連続ゴール！よし、これで2点差がついたし、試合を落ち着かせ……られない。ええ、確かにサッカーには『2点差（正確には「2-0」）は危険なスコア』って格言がありましたわ、3点差でも危険だから忘れてましたけど（苦笑）。3点目を獲った直後に、またも楔のパスで守備網を綺麗に崩され、失点…。そして、攻撃の勢いを増してシュートを撃ち続けるYS横浜に対して、動きが鈍くなった岐阜は、守備に追われる時間が続く。しかも、3回目の交代後に#24 栗飯原尚平が足を攣ってしまい、さらに不利な状況に。祈るような長い時間がゆっくりと進み、やっと、待ち望んだ試合終了の笛…。ホームでの勝利の喜びというよりは、僕にとっては安堵の気持ちの方が強かった。

勝利という結果は、もちろん最低限求められているものだし、素晴らしい。だけど、下位チーム相手に、しかもコンディショナルに有利なはずの試合でこの内容では、大きな不安が残ってしまう。勝ったはずなのに素直に喜べない、そんな試合だった。

（ささたく）

●端的に言えば、打撃戦かな？トータルで5点。いずれも見事なゴールだった。対戦したどちらかのサポーターでなければ、ものすごく楽しめる試合だったんじゃないだろうか？岐阜を応援する自分としても、ハラハラしながらの勝ち点3という結果は喜ぶべきだろう。

だが、しかし、だ。内容的にどちらの方が見ごたえがあったか、見ていて楽しかったかということ、残念ではあるが、横浜に軍配を上げざるを得ない。そう思うのは身びいきが過ぎての自虐なのかな？それでも、試合を通してやりたいこと、やろうとしていることが明確で、そのうえ、交替出場の選手も結果を出す。ベンチの意図も十二分に伝わる内容に、勝ち点は取れなかったけれども、横浜のサポさん達は満足、あるいは納得のいく試合だったんじゃないだろうか？

繰り返しになるけど、うちの選手の得点はどれも素晴らしいモノだった。10番の個人技。ワタルさんの絶妙なクロスに飛び込んだ大地。相手DFに寄せられて体制を崩しながらギリギリ残したヘッドでの一発。柳沢のクロスに合わせ、DFの隙間にヌルッと入りこんだ高崎。いずれも「ココしかない。」というゴールだった。だけどなあ。欲を言えば、先制した後のいくつかの決定機を決められなかったこと。それが響いたのかな。つい、この間、似たような試合があったような気がするな。とりあえず言えるのは横浜に技術と決定力があつたら3-6くらいで負けてた。そんな、ほぼ意味のないことを言いたくなるくらいに試合が終わった後は凹んでました。現地観戦組の心情はいかばかりか、と。勝ったか

ら、安堵できたのかな？

結局、スタメンとサブメン決めたら、あとは全部、選手のアドリブ頼み。あ、いや、後半、10番をボランチに落とした指示はよかった。指示なら、だけど。繰り返しになるけど、『やりたいサッカー』をやろうとしたのは横浜。ウチは『やりたいサッカー、やろうとしてのサッカー』が何なのか、未だわからず。まあ、これだけのメンバーがいるんだから、とにかくJ2復帰、なのかな？だとしたら、今のままじゃ届かない。方向性が見えてこない。既に、リーグ戦も半ばに差し掛かろうとしているこの時期に、今季上がれなくとも2年後、3年後にはいつきにJ2からJ1へ。そういう展望があるならまだしも、若手主体に切り替え、大分や北九州みたいになりたい。そんな姿勢も皆無。昇格しても一年で降格。そもそも、自動昇格枠にすら届きそうもない状況なんだよね。勝ったというのに、ちっとも心が晴れない試合。こんな日が来るなんてなあ。

勝ったのにブツブツ言われるなんて、選手は面白くないだろうね。ごめんさい。次節は心から楽しめる試合を期待してます。（ぐん）

●「順位で値踏みしちゃダメだよ」ってこと。ここ何年か、FC岐阜は下位に低迷する時間が長かったけれど、それでもリーグ戦で上位をしっかりと叩く、あるいは結果は残せなかったけれど相手を十分苦しめたことって、あるでしょう。この試合は、その逆。ぼくの周囲にも「YSCCにこんなに手こずるなんて」という感想をSNSに書いてるひとがいた。でも、いまの岐阜は「目標は上位（のチームが立てる内容）」で「実績は中位」。YSCCは下位に甘んじているとはいえ、対策を立てて臨めば両チームの差はこれくらい。この試合が岐阜の現在位置、なのだと思う。

この試合でいうと、両チームとも2点目が好印象。YSCCの2点目は、綺麗な縦のヒールから速いパスできっちり崩したいゴールだったけど、やっぱりぼくは岐阜サポなんで（笑）岐阜の2点目に注目。ワタルのためにスペースを空けるあいちゃんの動き、そして「フリーならこれくらい出来るわ」とばかりにピタコンのクロスを上げるワタル。大地も、ボールに首が負けるとクロスバーの上に浮かせてしまうところをよく抑えてゴール内にヘッドで打ち込んだ。そんなわけで、ゴールを5つも視れてしかも勝ったんだから、愉しめた試合だったよ。ぼくは、もう目の前の試合の勝った負けたを愉しむことにしたのでね。

（吉田铸造）

【第14節】沼津 1-1 岐阜

●沼津のホームスタジアムは、照明はあるものの照度不足でナイター不可。だから猛暑の岐阜ほどじゃないけれど、暑い状況でもデイゲーム、J3基準だから仕方ない。選手たちの消耗が心配だけれど、5連敗中と調子が上がらず苦しんでいる沼津は、アウェイでも勝たなければならぬ対戦相手。

試合は、序盤から岐阜がペースを握る。だけど、攻撃の歯車がどうも噛み合っていない感じだ。それでも、不調の沼津相手なら、なんとかゴールをこじ開けられるのではないかと、半分自分に言い聞かせるように僕は思っていた。ところが前半16分、自陣ゴール前での相手選手の抜け出しを、オフサイドとセルフジャッジした岐阜の選手たちは足が止まってしまい、先制点を許してしまう。…うん、確かにオフサイドっぽかったと僕も思う。だけど、笛が吹かれるまではインプレーなんだし、そういうのも含めて“それがサッカーだ”なんて、選手たちは嫌というほど分かってるはずなのに。選手たちは猛省してほしい。それに、J3の審判の多くは、あまりファールをとらない傾向があるので僕は思い始めている。そういった『J3での戦い方』を分かっていない、J2降格1年目のチームが苦戦するというのは、ある意味当然なのかもしれない。

その後、前半に同点に追いつこうと岐阜が攻撃のギアを上げ…られない……。選手個々人の能力はJ3レベルでは高くても、未だに攻撃のパターンが定まっていられないようにも見える。パスがずれてボールを奪われ、カウンターを受ける。そして、勝ち続ける強いチームというのはセットプレーでの得点も多いのが常だけれど、そのFKまでもがきちんと味方に入らず、相手に跳ね返され

続ける状況。しかし、徐々にオープンな撃ち合いの展開になると、後半83分、途中出場の#16 富樫佑太が値千金の同点弾！残り10分を切った状況で、決勝点を目指す両チームは、さらにオープンな展開に。しかし、その後は両チームとも得点を奪えず、1-1のドロー。沼津には岐阜を上回るシュートを撃たれたけれど、沼津の決定機はそれほど多くなかったと思う。この試合、勝ち点1を拾えたという見方もできるけれど、不用意な失点で勝ち点2を失ったと僕は感じてしまう。

試合後、インタビューに応えた選手の何人かが『攻撃の共通認識が欠けている』といった内容を話した。やっぱり…と感じながら、しかしだとすれば、それは由々しき事態だ。一朝一夕には難しいかもしれないが、これを解消しなければ、J2昇格なんて夢物語になってしまう。

(ささたく)

●実に酷い試合、と言ったら叱られるだろうか？少なくとも、自分にはそう思えた試合。ホントに、よく勝ち点が拾えたものだ。もっとも、前半が終わった時には「前の試合よりは幾分マシかな？」とか思ってたくらいには目が濁ってるんで、こんな感想になるのも仕方ないのかもしれない。ツライ。

結局は沼津のミスに救われた。途中出場の『元・岐阜の章駄天』からのスルーパスが通った時には正直観念したことを告白します。ホント、助かった。それ以外にもいくつ決定的な場面を作られたらどう？松本との一対一になったの三回はあったか。一回は松本が触って、あとはシュートミス。いや、負けなくてよかった。勝ち点1でよかったじゃないか。そう思った方が心身の状態には好影響だな。どのみち、この内容で勝ち点云々言うのはおこがましい。日程的にはウチの方が有利だと思ってた。アウェイ鹿児島、ホーム熊本の後、水曜日にアウェイ秋田。同じ水曜日の試合でもホームだったウチとの差はあると思ってた。しかも、沼津は5連敗中で直近3試合はいずれも3失点。そういう状態の下位のクラブにこの体たらく……というのは言い過ぎか。でも、主導権を握られればなし、ではね。3失点した相手はいずれも昇格を争う上位にいるクラブとなると、沼津を物差しにして彼我の差が如実に現れているんじゃないか？とさえ思える。それに、コンディショニング的に不利だと思ってた沼津の方が走ってる。フィジカル、どうした？シーズン前から培ってきたんじゃないか？

沼津のサポさん達は悔しかったろうな。勝てる試合を落としたんだもん。でも、連敗してても、こういう試合を見せてくれたんなら拍手で迎えてあげたいよね。そういう試合がボクも見たい。とにかく、サッサと切り替えて福島との後半戦に備えてほしい。ミッションは決まっていますから。頼んだよ！

(ぐん)

【第11節】福島0-2 岐阜

●沼津での悔しい引き分けから中2日。後半45分のために再び福島に赴き、8/22の続きを。しかし、前後半で日時が変わるのは仕方ないとしても、スタジアムも変わって…だけど、こっちが福島のメイン会場だったのに、芝がひどい状態。しかも雨でさらにピッチ状態は悪化。45分とはいえ、これがJ3での戦いというヤツなのよね……。

さて、前半に2点のリードをしている岐阜が受け気味になり、負けている福島は、まずは1点返そうと攻撃的にくることは十分に予想していた。……それにしても、だ。ピッチに慣れていないからか、省エネでの逃げ切りが念頭にあったからか、それとも沼津戦から切り替えられていないのか、明らかに岐阜の選手たちの動きがよくない。一方の福島は、後半開始から元・岐阜の#40 樋口寛規など3名を変更して攻撃を強めてゆく。その攻撃を我慢強く、粘り強く守る岐阜の選手たち。しかし、なんとか無失点で終えられたものの、あやうくゴールを奪われそうな場面もあり、相手チームのフィニッシュ精度の低さに助けられた点も多かったような……。前後半通してのシュート数は、岐阜が3本、福島が14本。後半はほとんど福島に攻められ続けていたと思う。実際、合計スコアで勝利したとはいえ、試合後の岐阜の選手たちの表情は、堅く暗かった。

ただ、内容はともかく、無失点で勝利したという結果は、今の岐

阜にとって必要不可欠なもの。問題点や反省点を今後にかき、勝利を積み上げてほしいものです。

(ささたく)

●この試合の感想を聞かれたとして、最初に出てくるのが「さすがに残念過ぎるピッチ・コンディションでしたね。」だったとしても決して責められはしないと思うんだけど、いかがでしょうか？ウチだけではなく、福島の選手にもキツかった、いや、ホームゲームのほとんどをこのピッチでやるのであれば、福島サポさん達を含めて関係者の心情いかにばかりか、と。ウチも、ときどき『田ッカー』と揶揄されるピッチになるけど、あそこまでにはならない。関係者の方々に改めて感謝したいと思う。

試合結果はスコア動かず……で2-0のまま。ミッション・コンプリートと言いたい。失点することもなく、中断前の得点差を維持しての勝利。体力も特に浪費した様子もなければ、ケガ人も出なかった。でもねえ、言い方はへんだけど、それって、ただの結果だよ。試合前に、前掛かりになる相手を余裕でいなし、あわよくば、もう一点くらい追加してとどめを刺す……という妄想を描いていた自分にとって、この内容は満足、納得のいく試合だとはとても、とても。省エネと言えは聞こえはいいけど、ほぼ自陣での展開。それも余裕をもってやってるんならともかく、アタフタしてる状況も散見。そして、あわやの枠内シュートが3本。ミドルに、CKからのヘディングに、お得意のゴール前混戦。拓也の好セーブとカラダを張った守備……と言えなくもないんですけどね。でも、決定的な場面を前述の三本以外にいくつ作られなかったっけ？ミドルの場面はボールを持たれた時から「詰める！撃たせるな！」と叫んでましたよ（心の中で）。いや、ホント、よく勝ったよ。で、暫定7位、ですか。昇格圏内へ勝ち点7、ね。イメージ的には、もっと離れてるもんだと思ってました。いや、7差もキツイのはわかってますけどね。しかし、ミッションを達成しても愚痴が出てしまうとは。

選手もたまったもんじゃないでしょうね。とにかく、まずは日曜日、ですよ。行きたかったなあ、八戸。

(ぐん)

【第15節】八戸0-3 岐阜

●日曜に沼津で試合をして中2日。45分間だったとはいえ、水曜に福島で試合してから（しかも風の噂では、岐阜に戻ったらしい……）、中3日で迎えるアウェイ戦。一方の八戸は、台風の影響で試合が延期されて火曜に鹿児島と90分間戦った後で、中4日のホーム戦。コンディショニング的には岐阜がやや不利な状況での試合。そして、またしても雨…消耗が激しくなるピッチなので、岐阜は様子見しながら試合に入るだろうと僕は思っていた。

ところが、だ。開始直後から岐阜の選手たちは、積極的に前線からプレスをかけ、ボールを追う。そして、八戸からボールを奪ってカウンターを仕掛けてゆく、意外な展開に。そうすると前半9分、CKでの敵ゴール前の混戦で#2 橋本和が芸術的？トリッキー？な先制点！…えーと、あれは『ボールが目の前に来たからとりあえずヒールでゴール方向に蹴ってみたら入った』でしょうね、本人も試合後に言っちゃってましたし（苦笑）。しかし、どんな形であれ1点なのは間違いなし！その後も攻撃が活性化した岐阜は、カウンターで前半17分に#15 町田ブライトが追加点（J初ゴールおめでとう！）！しかし、この後も岐阜が試合を優位に運んでたけれど、かなりヤバい決定的シーンが前後半あわせて2度ほど…その都度、相手が外してくれて、本当に助かったです。そして、このままじゃ1点返されるかも…と不安になってた時間帯に、相手選手が2枚目の警告で退場。これで再び優位を取り戻した岐阜は、後半76分に#24 栗飯原尚平のクロスで中央で#9 高崎寛之が飛び込んで3点目！これで勝負あり。“相手に助けられた感”も強いけれど、最後まで試合を優位に進めた岐阜が3-0で快勝。久しぶりに、比較的には安心して見られたかな（笑）。ところで、ここまで岐阜の選手たちの運動量が豊富だったのは、やっぱり八戸の気温が18℃と低かったからなのかな？そーすると、やっぱり岐阜の猛暑はチームの大きな障害なのかもしれない。うーん、なんとかならないものなのでしょうか。

(ささたく)

●福島戦の後は陸奥に居残って調整ではなく、いったん岐阜に戻ってきたらしいんだけど大丈夫か？そんな心配をしていたんだけどね。まあ、緊急着陸した情報は出なかったんで、その点は安心してました（笑）。それにしても、わかりにくかった八戸のユニフォーム。画面で見ていると、芝生と同化してやしないか？と心配で心配で。そういや、かつて、どこかで聞いたフレーズですね。マンオブザマッチはワタルさんで決まり。そう、勝手に思い込んでます。鮮やかなノールック・ヒール。美し過ぎるゴールへのパスでした。そのうえ、フル出場。技術も経験もある左サイドの職人が、いよいよ本領発揮なのか。今季のウチは、ゴール前で結果が出せるヒトが揃っているんで、高品質のクロスを量産することができれば勝利への道のりは短縮できる。期待が膨らみますね。しかし、ビックリしたのはウチのハイプレスですよ。戦術を徹底したのは今季初じゃないですか？（爆笑）。最初っから、あんなにフルスロットルで飛ばして最後まで保つて不安でしたが、追加点も取り、八戸のミスにも救われて3点差のクリーンシート。とどこどころに不満があるにはあるんですが、この結果で文句は言われちゃ、選手の立場がないですよ。ここは「お疲れさまでした。おめでとう！」と思わなきゃね。

ところで、八戸はふだんからああいいう戦術なんですか？ゴールキックからショートパスを繋いでいくスタイル。懐かしい情景でした（笑）だからこそそのハイプレス選択だったのかな？ああいいう戦術をとるチームの殺し方は、よく知ってるハズだよ（苦笑）。とにかく、必要だった勝ち点3をゲット。次節からの連戦。長野に富山。正念場です。

あ、ブライتكくん、J初ゴール、おめでとう！よく決め切りました。これからもどんどん決めてってね！初ゴールを記念して、ブライフーズ・スタジアムをブライフーズ・スタジアムに……、ならないか。ならないわな（笑）。

（ぐん）

●FC岐阜がJ3に降格したのは残念だけど、それでも「岐阜サポとして訪れたことのない街に行ける」という楽しみを見出していた昨年の年末。『J3観戦で行きたい街』のトップ・ファイブ・リストに載っていたのが八戸だった。なんてったって魚が旨くて酒が旨い。おまけに、スタジアムにはJ屈指の脱力系マスコット、イカの『ヴァン太』がいる（「酒を呑む」マスコットは以前にもいたそうだが、「酔っぱらう」マスコットはこいつしかいないはず）。ああ、コロナが憎いっ！憎いぜーっ！

と、尺を稼いでおいて（笑）試合は快勝でした。序盤にワタルの技術全開のノールック・ヒール・ループで先制。試合後のインタビューで「マグレです」と言っていたけれど、そう言っとかないと警戒されちゃうもんね（笑）。2点目は川西→高崎→ブライ君。綺麗なつながり。でも、ブライ君は次はあれをワンタッチでシュート出来るように練習を重ねよう。J2レベルだとあそこはトラップしたわずかな時間で寄せられちゃうよ。3点目は粟飯原から高崎。いまの岐阜の攻撃で唯一とっていいコンビネーション・プレーを観られるのがワタルとあいちゃんの左サイドで、あいちゃんもやって楽しいだろうなあ。ワタル級の選手から教えられることも多いだろう。成長を続けてほしいね。

結果、見事な3-0。この試合に関しては文句はどこにもないです。ぼくは何号か前の『岐大通』に「これからは目の前の試合の勝ち負けを愉しむ」と書きましたからね。アウェー3連戦を2勝1分で乗り切ったからといって2位との勝ち点差を測ったりはしませんよ（苦笑）。

実際、この試合を視ていて感じたのは7月のアウェー鹿児島戦（4-0で勝利）との共通点。相手が「対FC岐阜」の策を採ってこなかった。自分たちのサッカー・スタイルで戦う。そうすると、「戦術」的な上乘せがないので勝負は「戦力」的な部分、持ち駒で決まる。監督はともかく（苦笑）選手のステータスならウチは揃ってるよ。よくわからないけど、デッキがどうとかのカード・バトル・ゲームって、こんな感じなのかな？逆に、相手が「戦術」的な部分をコーティングしてくると、途端に形勢が悪くなるのは、ホーム岩手戦などで何度も視ていること。やっぱり、今季の岐阜は「引き技」「投げ技」禁止の相撲で体重にまかせて寄り切るしかないのかもしれない。いや、それ自体は間違っていないんだ。大相撲だって、15戦すべてを重量（物理）で寄り切れれば全勝優勝なんだし。

八戸は、昨年の八戸ホームの福島戦を観に行っていて、つないでワイドに攻める八戸 vs 縦に急ぐ福島の「ケンカ四つのガブリ四つ」が面白かったんだけど、今年から監督が代わってもそのスタイルは大きく変わっていない印象を受けた。これが、チームで継承させていきたい「ヴァンラーレのサッカー」なんだろうね。もう一つ。八戸といえば、2008年から在籍している新井山祥智。東北リーグ2部・北地区（いまのピラミッド構成で上から数えると7部）時代に加入して、加入2年目から今年まで12年間、ずーっと10番。彼が引退したら八戸は10番を欠番にしているよ（笑）とさえ思ってしまう。ぼくはノン・リーガー時代から何度も視ているので、まさか彼がJリーガーになるとは……と感慨深い。で、この試合の終了後にワタルが彼のところに挨拶に行き頭を下げていた。失礼を承知で書くと、選手のキャリアや知名度を考えると挨拶に行くのは逆なんじゃないかって気がして、ワタルはアタマ下げてたしなあ……と調べてみてびっくり。ワタルは高校は青森山田（2002-2004）だったんだ。一方の新井山は青森山田の好敵手・光星学院（2001-2003）だから、ワタルの1年先輩。2人は高校時代に対戦している可能性が高い。なるほどねー、そういうことか。だからアーカイブは面白い。（吉田铸造）